



北京理工大学 日本語学科学生
私にとって友愛とは

2016年版

一般財団法人 日本友愛協会 編

北京理工大学「友愛講演会」奨学金対象感想文
私にとって友愛とは

∞∞∞ 目次 ∞∞∞

グラビア	講演会風景		
感想文	第一位	楊 崢	1
	第二位	汪玉珏	3
	第二位	王文傑	5
	第三位	金正琳	7
	第三位	魏永珍	9
	第三位	張 鵠	11
	入 選	張 莹	13
	入 選	王 菁	14
	入 選	班宇識	16
	入 選	馮 曄	17
	入 選	陳樺櫻	19
	入 選	劉天媛	20
	入 選	徐嘉澍	22
	入 選	戴 玲	23
	入 選	吳 薪	25
	入 選	張婉舟	26
	入 選	白 楊	27
入 選	高佳蔚	29	
入 選	邵雪穎	30	
入 選	芦雅潔	32	
入 選	孫家麗	33	



日本友愛協会 国際交流事業

講演会風景





楊崢（2年）



子供の頃、両親はよく「他人とは友好的に付き合いなさい。」と言った。その時の私は、友好と友愛は同じことなのだろうなと思っていた。

当時の私にとって、友愛とは「友」と「愛」であった。「友」とは他人との付き合い方において、他人に優しく接し、周りの人を大切にし、必要な時には手助する。これが「友」だと思った。そして「愛」とは、行為だけではなく、心から他人に対して優しい気持ちを持ち、真心で他人と付き合い「愛」であった。これが私の考えていた友愛であった。これが私がつい最近までイメージしていた友愛であった。

しかし、鳩山由紀夫先生の講演を聞いた後、私は「友愛」という言葉に対して新しい考えを持つようになった。『友愛』は、自立と共生だ」というのが鳩山先生の考えである。まず、鳩山先生は「友愛」と「自身」とを繋げて、「他人を愛すると同時に、自分を愛することも大切なことだ」と私たちに説いた。自分を愛することは、自分を尊重するということだそうで、自分を愛するからこそ、他人を愛することができるのだ、と先生は言った。従って、自立とは、こいう愛を基にして、自分の能力を向上させ、この世で一人前になることであろう。

しかし、鳩山先生によると、自立して、一人前になり、自分一人だけが強くなるだけでは、多くのことを解決することができない。従って、「共生」も大事である。みんなで協力して目的を達成するのは、今の社会の秩序である。自立と共生とを繋げることで、これが鳩山先生の考える「友愛」である。

私は、この友愛は人々間の関係だけでなく、世界での国家間関係に対して

も、非常に必要なものだと思う。

今日に至るまで、戦争は人間の歴史において、何度も何度も勃発した。統治者たちは自分の野望のために、戦争を繰り返した。戦争は人間に新しい技術をもたらす一方、多くの犠牲者を出した。「戦争は必要だ。戦争をしなければ技術は発展したであろうか」と言う人さえいる。これは私たちには考えられないことである。国家が自立して強くなることは確かにとても重要だが、私たちが求めるのは、戦争をして国家を強くすることではない。他国と共生するこそ、この世界の発展を促進するために正しい方法である。他国と共に世界の平和と発展のために協力すると同時に、自国も強くなる、これが本当の世界における友愛であろう。

中国では、かつて墨子が兼愛という言葉で、他人を自分と同じように愛しなさい、と説いた。墨子の兼愛には、鳩山先生の友愛の精神に通じるものがあるのではないかと思う。友愛の精神は、国境を超える普遍的なものなのだろう。墨子の教えに親しんでいる私たち中国人は、他国の人々よりも鳩山先生の友愛を実践しやすいのではないかと思う。鳩山先生の友愛の精神に基づき、国家でも、人間でも、自愛し自立し、他人あるいは他国を愛して共生し、より美しい明日を他人と築くことができるように、私自身も小さな一歩を歩み始めようと思った。

汪玉珏（4年）



先日鳩山先生の講演を伺って、再び友愛について考え、一つの結論に達した。友愛とは、友を愛することだと思う。しかし、この「友」は自分の友達に限られてはいけない。必ず周りの人々を、世の中の全てを友にし、愛することこそが、友愛の真の意味であろう。

だが、それを実践するのが難しい。今の私はテレビで貧困な子供たちの生活が辛いと聞いたり、街

でゴミを捨てる老人を見たりすると悲しくなる。まるで自分の家族が苦しんでいるみたいに思えるが、昔も友達以外の人に少し情けないかもしれない。

それは子供の頃のことであった。ある日、外で友達とおもちゃの人形を遊んでいたところ、隣人の琴が来た。彼女は家が貧乏なことを理由に卑屈になって、あまり友達がなかった。

その時、琴は私の綺麗な人形が気に入り、遊びたがったが、私は「自分で買ってよ」と言った。すると友達の蓮は私に言った。「彼女は家が貧乏だから、おもちゃなんて買えないよ。」琴はその話を耳にするや、すぐ私たちに大声を出した。

「もういい、遊ばせてくれなくてもいいよ。でも、どうして私を嘲笑うの。」そして私の人形を奪った。私も反抗したが、琴は人形を乱暴して壊してしまった。

最後に、私と友達は泣いて家に帰った。

その日から私は琴を大嫌いになった。しかし約半年後、父から琴はひどい病気になって入院したので、一緒にお見舞いに行こうと言われた。私は行きたくなかった。そこで父は私に話をした。その話は私の心を突き刺したのだった。

「そんな小さなことで大事な友人を一生の敵にしたら残念だね。人は情けを持

たなくては。琴は卑屈になって友達がないからこそ玉瑀が彼女を愛していることを伝えるべきだ。」当時の私は父の話を理解できなかったが、親の言うことなので仕方なく病院に行った。琴は泣きながら私に謝り、人形を直して返してくれた。私はそれで彼女を許した。

「あなたを友達にしようかな。」彼女はそれを聞いて、笑った。私は初めて彼女の笑顔が美しいと気づいた。

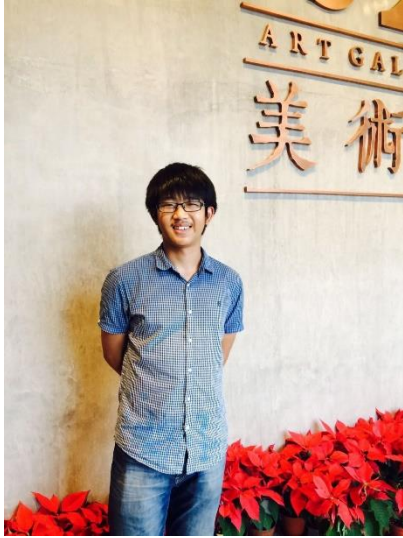
人は家族と友達を愛せるにちがいない。しかし知らない人や仲の悪い人も愛するのは難しい。周りの親しい人のことしか考えられない人は、親しくない人を簡単に傷つけてしまう。それがちがうのだ。

泥棒はお金のために他人の財布を盗む。会社は利益のために商売敵を中傷する。国は他国の国境を侵犯する。人と人は、なぜ互いを傷つれあうのか。それを悲しいと思わないのか。人間は思考力がある。それは他者を傷つけるためではなく、友愛の力で明るい将来に向かって発展していくためではないのか。

私は皆に友愛という情けを持って欲しい。先人が友愛という言葉を作成したのも、私たちにこの言葉を理解し、中の理想を実現してもらいたがるのだろう。他人を愛し、傷害しない。他国を愛し、侵かさない。そしてできるだけ助ける。人々はお互いに愛し、助け合えば、いつか古人が提出した「大同社会」もできるだろう。

友愛というものは、そのような力があると信じている。

王文傑（4年）



私にとっての「友愛」とは、自然への愛と人間への愛のことである。対象は異なるが、どちらに対しても友愛は欠かせない重要なものだ。

「友愛」という言葉の中で、一番重要なのは「愛」だと思う。従って、「友愛」を理解するために、まず「愛」を理解しなければならない。中国語と違い、日本語の「愛」という字には「心」という字が含まれている。つまり、心から愛するというのが「愛」

の根本だ。それは恋のようなものではない。辞書によると、相手を慈しむ心のことだ。また、相手のために良かれと願う心でもある。それは簡単にできることではない。他人を愛することを学ぶために、まず自分を愛することを学ばなければならない。自分をもっといい人間になることを心から願う経験をした事がないなら、愛する愛すると何度も言っても他人を愛することができないだろう。だから自分を愛する事は基本である。その上で他人を愛するべきだと思う。

しかし、これが「友愛」の全てではない。「友愛」というのは、ただ自分の周りにいる、ある特定の人を愛することではなく、全ての人間を愛することだと思う。相手が女性であっても、男性であっても、貧乏人であっても、金持ちであっても、中国人であっても、日本人であっても、全ての人間を愛して、全ての人間がいい人間になることを願う事が「友愛」であると思う。それはとても偉大な事だと思う。国界を超え、人種を超え、世界中の人々を繋げるものだと感じている。「友愛」が世界に普及すれば、戦争が起こることなど無論なくなり、犯罪も少なくなる。社会における貧富の差も少なくなるなど、公平を守ることもできる。さらに、「友愛」の前提は自分を愛することなので、自由を守ることもできる。「友愛」

は、まさに自由と公平の両者を繋ぐものとも言える。そうすると、世界中の人々が団結することができて、一層良い世界を作る事ができるだろう。

また、良い世界を作るために人を愛する事だけでは不十分だ。だから「友愛」は自然への愛も含んでいる。環境保護だけでなく、より良い環境を作る事も「友愛」の精神に相応する。そのために、工場などからの汚染物質の排出を制限したり、植林活動を行うことなども非常に重要だ。

自然への愛と人間への愛が私にとっての友愛である。私自身も、まず自分を愛すという小さな「友愛」を実践することから始めて、世界平和や環境保護など大きな「友愛」に向かって努力していきたいと思う。

金正琳（4年）



私は以前、中央民族大学で、鳩山由紀夫氏の講演を聞いた。講演の中で彼は友愛という言葉について様々に解説した。私が一番印象に残ったのは自然への愛ということだ。友愛という言葉は一般的に人間同士の愛を表すと思われる。しかし、人間の自然への愛も友愛であるという考え方は、私にとって初めて聞いた新鮮なものだった。人間と自然はどんな繋がりがあるか、その友愛とは一体

どんなものか。

私は内モンゴルの呼倫貝爾大草原で育った。ふるさとは、人間と自然について物語がたくさんある。例えば、呼倫貝爾という名前にも深い意味が隠されている。その昔、大草原に呼倫という男の子と貝爾という女の子がいた。幼なじみの二人はやがて恋人同士になり婚約した。ある日、ナーダムが開催され、人々は各地から王様の領土に集まった。王様は競馬場で貝爾を一目見て気に入り、自分の嫁にするため呼倫を殺すことに決めた。それを知って二人はすぐ逃げたが、王様につかまった。呼倫と貝爾は絶望し、命をたち、湖になった。今では、呼倫と貝爾という二つの湖が大草原で静かに澄んでいる。呼倫と貝爾のことは想像の産物だが、私を一番感動させる物語である。それは呼倫と貝爾の愛情を賞賛すること以外の意味も含んでいる。つまり、このような悲しくも美しい物語は、自然への愛そのものなのではないかと思うのだ。自然を愛しているからこそ、物語を作り、自然の美を賛美する。これもまた友愛の一つの表れだ。

「友愛」という漢字を見ると「友」と「愛」から構成されている。私はこれを、何かを友達のように大切にし、心より愛すると理解している。だから、人間だけ

でなく、私たちの生活している自然にも愛を捧げなければならない。それは私たちの責任です。近年、経済成長と地域発展のため、私たちは草原を破壊しつづけている。例えば、石炭を取るため草原を掘る。羊を飼育するため、際限なく放牧する。その結果、草原は昔ほど生命力がなくなっている。

昨年の夏休みに、私はふるさとで一年に一度の山祭りに行った。この祭りはモンゴル民族の伝統的な儀式で、人々は牛乳と酒、そして様々な食べ物を持ち、山の麓を回りながら、食べ物を神に献上する。しかし、祭りの後にたくさんのプラスチックや包装紙が残ることが問題になっている。だから、今年の祭りで私はボランティア活動に参加し、他の学生たちと一緒にゴミを拾い、山を綺麗にした。この活動を通じて私は友愛を感じた。また、人々の自然への愛に気づいた。人間と自然は互いに依存し、供給し合っているのだ。そのバランスの中に、友愛が隠れている。そして、草原は破壊されても、友愛があれば、必ず元に戻るとも確信した。鳩山由紀夫氏の言った自然への友愛について理解した。自然を愛する、自然に責任をとることが即ち友愛ということなのだ。

魏永珍（2年）



今、よく言われる「友愛」とは、古代の中国における墨子の「兼愛」思想と大体同じだと思っている。

「兼愛」というのは、家族であるか否か、富貴か否かは重要ではなく、分け隔てのない無差別な愛のことである。そして、鳩山先生の講演を聞いて、友愛の原則をさらに深く理解するようになった。鳩山先生の講演でもっとも印象的なのは、先生が「友愛の三原則というのは、互いに尊重し、互いに理

解し、互いに助けることだ」とおっしゃったことである。つまり、「友愛」とは、国籍、民族、性別、年齢を問わず、互いに理解し信頼し、支えあいと助け合える自然な感情である。また、私個人として付け加えるなら、「愛」という漢字の中の「心」は「友愛」の根本だと思う。なぜそう思うのかというと、人と付き合うとき、その人の立場に立ち、相手のことを思いやり、時が経つにつれて、以心伝心のような関係になるからである。

去年、友達を通じて、日本人の学生と知り合いになった。彼女は日本に住んでいるが私は中国にいたので、会うことができない。だから、私たちはメールで連絡するだけで、一回も会うことがない。にもかかわらず、祝日になる毎に、お互いに挨拶をし、心から相手の幸せを願う。日本語で分からないことがあれば彼女に相談し、逆に、中国の文化に興味がある彼女には私がいろいろ教えてあげた。日本語がなかなかうまくならなくて私が落ち込んでいる時、彼女が励ましてくれたおかげで、少しずつ自信が持てるようになり、次第に進歩してきた。私も、彼女とは会えないけれど彼女の立場に立って考えてみたり、彼女のことを思いやったりして、親しい友達になった。このような、小さくても真の温かい感情も「友

愛」ではないだろうか。

また、友愛は人と人の間の愛のみならず、国家間の助け合いも友愛の一つだと思う。エボラウイルスの危機にさらされたアフリカ諸国は、世界の注目を集めた。中国、日本、アメリカなど世界各国が迅速に対応し、医療団体や専門家を派遣した。現地住民の衛生、食品安全、医療設備の改善に貢献するだけでなく、先進技術を通じてエボラウイルスの感染を未然に防ぎつつある。このように、友愛は人間の善を表し、世界中に希望や温かさをもたらす。人々や国々が困難な状態に陥ったとき、友愛は欠かせないと思う。

社会の発展とともに、人々や国々の交流は深くなり、友愛も広く伝えられるようになる。大学生である私たちは日常生活から、友愛の架け橋として、積極的なエネルギーを社会に伝えるべきだ。さらに、日本と中国は一衣帯水の隣国だから、深い友愛の絆が結んでいる。中日関係でも、相手を理解し、心を配り、友愛を伝えることができるよう願っている。

張 鷗（2年）



中国では小学校から友愛についての教育をうける。当時の私にとって友愛とは、「友」と「愛」から成るただの二つの漢字であった。しかし、日本語の勉強をきっかけに、知らず知らずのうちに友愛を理解するようになった。今、私にとって友愛とは、異なる意見を持つ人々が、お互いにその違いを尊重し合う心のことで、究極的には自由と平和を目標とする志である。友愛は、国際平和のため

の活動から、私たちの日常生活に至るまで、私たちにとって不可欠なものなのである。

初めて友愛を感じたのは、日本人の先生からである。彼女は典型的な日本人で、どんな些細なこともいい加減にしないタイプだ。ある日の授業で、私の彼氏が「学渣」だという話題になったときに、彼女は真剣に別れを勧めてきた。その理由が、「私は皆様のご両親が大切に育ててきたお子さんを学校で預かっているのだから、お母さんとして言います。そんな子と付き合ってはだめ」だというものだった。もちろん、私の彼氏が「学渣」というのは冗談であるし、私が誰と付き合おうと私の勝手なのだが、お母さんのように私たちをみているというその思いにとても感激した。社会の発展とともに、人々の心の温度も次第に低くなって日に日に冷たくなっていくこの世の中であって、先生の言葉は私に友愛の温かさを実感させた。もし人と人が先生と私たちのように、国境や文化の違いを超えてお互いに理解し合ったら、争いが消えるのではないだろうか。

また、鳩山先生のスピーチを聞いて、友愛に関する理解が深くなった。友愛は理想化の言葉ではなく、むしろ、相手に対して理解し合い、尊重し合い、支え合う

ことである。甘い考えかもしれないが、もし地域と地域、国と国の間で友愛をもとに共存し、「大同につき小異を残す」という原則を貫けば、人類はもっと幸せになれるのではないだろうか。

日本には「福笑い」という歌がある。「この世界の共通言語は、英語じゃなくて笑顔だと思う」という内容なのだが、私はこれこそが友愛の核心ではないかと思う。たとえどんな国でも、どんな民族でも、お互いに理解し笑顔で報いるのが友愛の精神である。人間には違いがある。しかし、これらの違いがあるからこそ、お互いの違いを理解することが重要なのである。友愛という、この尊く優しい気持ちは、まさに友愛の中の愛と呼ぶのにふさわしいのではないだろうか。

今の私にとって友愛とは、日々の生活においては異なる意見を持った相手を尊重し思いやることであり、大局的には、国際社会での自由と平和を追及する尊いものである。大学に入学して以来、日本語を楽しく勉強しながら友愛の雰囲気を感じてきた。友愛は日本にもらった貴重なプレゼントではないかと思う。私はこれからも、このプレゼントを大事にし、友愛の道に沿い暖かい未来を作るために尽力しようと心に決めた。

張莹（2年）

友愛とは、一体どういう意味なのでしょう？先日、中央民族大学で、鳩山由紀夫元首相の「友愛・平和」についての講演を聞いて、感銘を受けました。それをきっかけにして、友愛について自分でもいろいろ考えました。すると、今まで気づけなかったのですが、実は、友愛は以前から私にとって、大切な意味があるということがわかりました。

子供の頃、私にとっての友愛とは、友情でした。友達はお互いに助け合い、尊重しあいます。それは友愛の形の一つだと思います。

私は大都市上海で生まれ育ちました。一人っ子なので兄弟もいないし、両親は仕事で忙しくて、いつも一人で寂しかったです。そんな私の心を癒してくれたのが友達でした。平日は一緒に遊んだり、おしゃべりしたり、学校に通ったり、友達はいつも私のそばにいました。毎日、放課後に、「また明日」とお互いに声をかけあったのですが、学校がある平日は必ず会えるとわかっているのに、翌日にまた会えたときの嬉しさは格別でした。家に帰っても、休みの日でも、友達とは永遠に一緒にいられるのではないかと思いました。友達の優しさも笑顔も鼻のようにぴかぴか輝いて、寂しい私の支えとなって、心を暖かくしてくれました。喧嘩も時々しましたが、いつもすぐ仲直りしました。いつでもそばにいて、お互いに助け合う私と友達の関係は、当時友愛という言葉こそ知らなかったのですが、まさに友愛の気持ちとして幼い私の心に深く刻まれました。

18歳で成人し、大学生になったあと、私の友愛に対する理解は少し変わりました。今の私にとって友愛とは、人間にとって必要な精神であり、一致団結することです。その団結は、相互理解、相互尊重、お互いに助け合うという思想をもとに生まれたものです。

人と人の間に、友愛精神はよく見られます。「友愛は友人の間に存在するだけでなく、見知らぬ人々の間にも友愛は存在すべきだ」と思います。アリストテ

レスによると、「人間は社会的な生物なのだ」そうです。換言すれば、人間は一人で生きられないのです。中国には「団結は力なり」というそれを表すことわざがあります。一人の力は弱いけれど、集団になれば強くなる、という意味です。ですから、人々の間に友愛が存在してきたからこそ、人間は今日まで生きているのです。友愛が存在しない世界は、まさに月のない夜、世の中は暗闇になるでしょう。同じような考えは、古代中国の孔子にも見られます。孔子も「仁」、「愛」という思想を使って友愛の重要性を大いに強調しました。今、この友愛の思想は世界に認められ、益々重視されています。

私も常にこの「友愛の原則」を心に記し、この考えを実践しています。大学1年生になってから、学校の主催するボランティアに参加して恵まれない地域の子供たちに授業をしました。私はこの友愛の思想を子供たちに教えてあげたいと思うのです。個人の力は小さいけれど、子供たちの成長に役に立てれば、と思い、大都市育ちの私には、最初は少し辛い環境でしたが、頑張っって子供たちと生活を共にし、全力で授業をしました。

今、私には小さな夢があります。「国々の間に友愛の原則を広めて、一緒に世界の平和を守る」ということです。世界の平和を心から祈っていますので、その実現のために、私は友愛の理念を堅持し、より美しい世界のために頑張りたいと思います。

.....

王菁（3年）

友愛とは一体何だろうか。この言葉に対する理解は人によってそれぞれ違うと思う。私にとって、友愛は人間になくってはならない精神で、人々を結ぶ絆である。子供の時からよく「友愛」という言葉を耳にする。先生からも親からも「周りの人と仲良くして、お互いに助け合いなさい」と言われたことがある。国語の授業

でもずっと友愛を趣旨とする文章を勉強している。私たちは生まれてからずっと友愛についての教育を受けていると言える。それは、友愛は人間にとって必要なものだからではないか。人間は友愛に欠けると、この社会は順調に発展できないのではないかと思う。

では、何をすれば「友愛」と言えるか。鳩山先生は講演会で「友愛とは自己の自由と尊厳の尊重と同時に他者の自由と尊厳も尊重する精神だ」とおっしゃった。私は鳩山先生の考えに賛成する。友愛とはただ仲良く付き合うという意味だけではなく、相互扶助と同時に相互尊重も大事だ。

友愛は何も考えせずに、他人を助けることではない。例えば、もし知り合いが歩いているときに道で転ぶが、怪我をしなかった。こういう場合、私たちは助け起こすべきか。恐らく多くの方は助け起こすべきだと考えるだろう。しかし、本当に助け起こすほうがいいのだろうか。その人は不注意に平地で転んだから、自分で立ち上がることができる。それに、その人はきっと恥ずかしくて誰にも見られたくないかもしれない。その人が怪我をしていないのに、私たちが軽率に助け起こすのは本当の友愛ではないと思う。もう一つ、例をあげてみたいと思う。身体障害者に対して、多くの方は彼らに同情し、気を配る。それはよくないとは言えないが、同情する目線より、普通の人に対するように自然に付き合うほうが本当の友愛なのではないか。本当の友愛は相手の気持ちを察しながら、適切な方法で他人を助けるべきだ。つまり、他人の自由と尊厳を尊重すべきだと思う。

中国では「違いは違いとして尊重しながら共通点を探る」という諺がある。それは友愛の意味と通じていると思う。私たちは他人の個性を尊重しながら自己責任を負うべきだ。このようにして、常に友愛の精神を持てば、社会の様々な問題や矛盾を減らせる。私はこれからも友愛の精神を実践するために頑張ろうと思う。

.....

班宇識（3年）

「友愛」という言葉はよく耳にするが、説明するのは容易ではない。鳩山由紀夫先生は講演で「天下互いに兼愛すべし」という墨子の兼愛論を引用し、友愛について説明した。兼愛というのは親族と他人を区別しない平等の愛ということだ。それを聞き、自ら経験したことに照らして、「友愛」の意味が分かるようになった。

それは去年の年末のことだった。北京は雪が降り、とても寒かった。私はクラスメートと一緒に授業に行く途中、凍っている道路で転倒し、頭を打った。頭から血がポタポタと流れ出て、みるみるうちにマフラーが赤く染まっていった。人生初めての大けがだった。

そばにいたクラスメートは出血に驚き、震えた声ですぐタクシーを呼んだ。彼女に支えられて、私はなんとか立つことができたが、歩くと激しい痛みが感じられた。それで、彼女は授業を休んで私に付き添い、一緒に病院に行った。医者が私の傷口を針で縫っている時、彼女は血を見るのも苦手なのに側にいて、痛みで泣いてしまった私を慰めてくれた。

処置が終わっても、親族ではないのに、彼女はずっと私のそばにいて、あれこれ世話をしてくれた。彼女は背が私と大体同じで、体格もあまりたくましくない。しかし、立ち眩みで倒れそうになった私をしっかりと支えてくれた。また、私に代わって事務手続きをしたり、CT の画像や薬を受け取ってくれた。私も彼女も昼ご飯を食べていなかったなので、彼女は二人分のご飯を買ってきてくれた。ごく普通の中国風のお弁当だったけれど、彼女と一緒に食べたお弁当はとてもおいしく感じられた。彼女のやさしさに感謝する気持ちを込めて、私は一口一口大切に味わった。彼女の優しさに感動し、「友愛」を感じた経験だった。

今の時代は人間関係が希薄化した時代だとよく言われる。「大学ってなんか人間関係薄いな…」と悩んでいる大学生も多くいる。なぜなら、高校はクラス単位で

授業を受けるので、人間関係が固定されているが、大学は授業がばらばらでクラスメートと過ごす時間も限られているからだ。しかし、細やかな心遣いをしてくれた彼女からは希薄化したと言われる人間関係は感じられず、心が温められる思いやりが感じられた。友愛とは一体何かといつも心の中で自分に問うていたが、今その問いにようやく答えることができる。彼女が私にしてくれたような親族関係を越えた心遣いこそが友愛だと思う。

字面から見ると、「友愛」という言葉は「友」と「愛」の二つの字からなる。「友」は親しい人間関係を連想させる漢字だ。「愛」は温かい心が込められた感情だと思う。私にとっての友愛とは、そういう親族の関係を越えた温かい心遣いだ。

.....

馮曄（3年）

私にとって、友愛は三つの意味ある。一つ目は、人への友愛。二つ目は、ものへの友愛。三つ目は、自然への友愛である。

◆人への友愛

辞書によると、「友愛」とは知人に対しては献身的な愛をささげ、見知らぬ他人に対しても必要な愛を惜しまないことである。自分以外の人に優しく接し、他人に配慮するのは人に善意を表す友愛である。ことわざにもある通り、情けは人の為ならず。お互いに情けをかけると、この世界は愛が溢れるようになり、自分も世界に優しくされる。世の中には貧富の格差が存在している。お金持ちもいれば、日常生活でさえもままならない人もいる。人を自分の力で助けることは、自分にとってはたいしたことではないかもしれないが、助けられた人にとって、それは本当にありがたいことだろう。

苦境に陥っている人に手を貸し、助けてもらった人が助けてくれた相手に感謝する気持ちを抱き、ほかの人を助ける。それは人への友愛の巡りだ。

◆ものへの友愛

世界には自分の知っているものだけではなく、詳しく知らないものも様々ある。それには他国の文化や他人の考え方などが含まれている。自分の価値観とは異なるかもしれない。人は自分の詳しく知っている以外のことに何となく抵抗し、ほかの人の特別な行動が変だと思っている人が少なくない。それは偏見に違いない。多文化が進んでいる現代、自分と異なるものに対して抵抗せず、それを理解し、尊重するのは、ものへの友愛である。

◆自然への友愛

この世界に生きているのは人間だけではなく、植物や動物などほかの生物も人間と一緒にこの世界で生活している。人間は自分のことだけを考えてはいけない。友愛は人間への愛ばかりでなく、全世界の生き物への愛だとも思う。近年、人間は経済発展を優先したため、自然環境が破壊されてきた。現在の中国、特に北京、天津、河南などでは大気汚染が非常に深刻だ。空気中の有害物質は健康に害をもたらすので、私たち北京の学生は出かける時は必ずマスクを付けなければならない。大気汚染問題だけでなく、その他の環境問題も課題になった。例えば、中国の多くの地域で近代化を促進するため、大量の木が伐採され、高層ビルが建てられ、街の緑地面積が少なくなった。森林面積の減少は砂漠化など様々な問題を引き起こす。友愛協会は中日友好・自然環境保護を目的として植林活動を行なっている。それは自然への友愛であり、他国への友愛でもある。友愛協会の活動は中国の自然環境保護をサポートするだけでなく、中国の国民に対して自然への友愛活動の良い手本を示している。

自分のことだけを考えず、同じ地球に暮らす全ての生命体への配慮と善意こそが、私の理解する友愛である。

.....

陳樺櫻（2年）

日本の前首相、鳩山由紀夫先生は「友愛とは自己の自由と尊厳を尊重すると同時に、他者の自由と尊厳をも尊重する精神」であると言った。人間にしろ、社会にしろ、お互いに助け合うことが友愛だ。それを基に考えると、血縁のある人から貰う愛が家族愛、恋人に貰う愛が恋愛だと考えられる。すると、友愛には友人や知人のような血縁関係のない人からだけでなく、全く知らない人から貰う愛も含まれると考えられる。

世の中には、転んだ老人を助ける心優しい人がいれば、階段から落ちた他人の子供を救う母親もいる。見ず知らずの人を助けることができるのは、他人の生命を自分の生命のように大切に考えているからだ。他人から私心のない援助をしてもらい、他人に私心のない援助をしてあげること、これが助け合いの精神と呼ばれる友愛だと思う。

社会には、助けあいが必要だ。もともと人間という生物には群れをつくらずには生きていけないという弱さがある。人間には身を守るための毛皮もなければ、敵を攻撃するための牙もない。だから集団の力に頼らざるをえない。生活に必要な道具にしても、もしも集団がなかったら、一人で作り出すのは大変だ。人間はいつも群れのなかで生き続けてきた。つまり、表現を変えて言えば、人間は社会の生き物なのだ。助け合いというものは社会的生物としての人間にとってなくてはならないものなのだ。

また、人間は感性の生物だ。私たちは常に寂しさと孤独を感じている。特に家族が私たちのそばにいない時は、特に強く寂しさを感じる。だから、私たちは見知らぬ人からでもやさしさと愛がほしい。人から慰めと思いやりの気持ちを貰って、苦しい時を耐え忍ぶことができる。そうすることによって、知らない者同士は友愛を通じて親しい関係を築くことができる。友達になるかもしれない。友愛は友達や知り合いなどの血縁がない人だけでなく、知らない人からも貰うこ

とができる愛だ。

その上、友愛によって社会の暖かさが感じられる。鳩山由紀夫先生は「友愛は助け合う社会を創ることができる」と言った。だから、例えば、お互いに助け合うために社会には様々な NPO がある。例えば UNICEF や友愛会は、それぞれ具体的な目的は違っても、国際社会において愛と助け合いの精神で日々活動を続けている。こういう組織は友愛の存在がわかる一番いい証拠だ。

ヘルマン・ヘッセはされることは幸福ではなく、愛することこそ幸福だと言った。友愛は依存、従属、もたれあい関係ではなく、お互いに助け合う精神だと考えられる。

.....

劉天媛（3年）

友愛というものは私にとってなんとなく暖かいイメージがある。なぜかという、漢字から見れば、友は友達の友を表すからだ。すなわち友愛は友達同士の間で流れている愛である。しかし、友愛という精神はそんなに簡単なものではないと思う。友愛に対する理解は違う立場によって変わるからだ。

まず、国際的な立場から見ると、友愛は平和を守ることと発展に協力し合うことである。第二次世界大戦後、平和の重要性が焦点となった。言い換えるなら、戦争は人間の心に潜む友愛を呼び覚ました。現在の国際情勢は劇的に変化している。世界のアンバランスな発展、一部の地域の不安定な政局、不適切なグローバル・ガバナンスなどの問題がある。平和を守るために世界の大国は逃れられない責任がある。世界最大の発展途上国として、中国は独自の平和的な外交政策を追求し、アジア諸国と共に経済の発展に協力するために「一带一路」という戦略を遂行している。「一带一路」とは新疆の地理的な利点を利用してシルクロードを構築するために、中央アジア、南アジア、西アジア、シル

クロード経済ベルトの重要な交通機関のハブ、ビジネス物流、科学と教育の文化の中心地を形成する政策だ。周りの諸外国とともに発展するために努力することは友愛精神の反映だろう。

また、社会という視点から見れば、友愛は弱者に対する配慮と援助であると思う。例えば、現在中国の一部はまだ貧困にあえいでいるから、ぼろぼろの教室で授業を受けるなど、好ましくない環境で学習を続ける学生が少なくない。中国各地の大学から学生たちがボランティアとして教育支援するために、貧困地域へ行って教師として活躍している。もう一つ例がある。大量出血したけが人を助けるために、輸血が必要である。しかし、けが人が多いとき、病院にある輸血用の血液の不足から、助けられたはずけが人を助けられなくなってしまいうかもしれない。したがって、献血する人々が多くなる。それは社会の友愛精神だろう。

最後に、個人の生活の中にも友愛精神がよく現れている。私はたくさんの友達がいる。友達がいれば困ったときお互いに助け合ったり、うれしいとき喜びを分かち合ったりすることができるから、友達がたくさんいればいるほど幸せになる気がする。これは知人との間にある友愛である。また、見知らぬ人と付き合うとき、友愛精神があれば、われわれの生活は愛でいっぱいになる。例えば、バスでお年寄りに席を譲ることなどである。見知らぬ人のほほ笑みを見ると、私達も心から喜びを感じる。

大学生としての我々は、生活の中の小さいことから、友愛精神を実践すべきである。クラスメートに対するの友愛、社会の弱者に対する友愛、見知らぬ人に対する友愛、他国に対する友愛、地球に対する友愛などを実践して、友愛精神を周りに伝えていくことが大切だと思う。

.....

徐嘉澍（3年）

友愛とは一体何だろう。去年友愛協会の活動に参加したとき、この質問が頭に浮かんだ。その時私が思ったのは、友愛とは他人のために、見返りを求めずに、一生懸命に何かをしてあげたいという気持ちなのである。つまり、どんなときでも好意を持って、困っている人がいれば助けてあげたい気持ちだ。その源が友愛ともいえるだろう。

しかし、この一年間、私の考え方は少し変わったような気がする。まず、世界中には貧乏で苦しんだりや病気などに悩まされている人はまだまだたくさんいるが、今、大学生である私たちにとって、できることは実に少ないのだ。しかも、他人に助けてあげたいと思っても、実際の状況では、身の回りの人が助けを求めることは本当にめったにないのだ。それで、わたしは少し迷ってしまった。

だが、先日、このようなことがあった。あるごく普通な日、私は学生カードに貯金していた。私の隣には、ひとりの外国人の留学生がいた。彼も貯金しようとしていたが、中国に来たばかりのようで、中国語はあまり上手ではなさそうだった。彼は中国語表記しかないタッチスクリーンの前で完全に途方に暮れていた。彼は少しこっちを見ていたが、私に助けを求めようとしなかった。だから私も別に「教えてあげよう」というような行動をとらなかった。ただ自分が操作している手をゆっくり動かして、ごくわかりやすいスピードで貯金した。彼もそれを見て、私の動作に従って、自分で貯金することができた。最後に、お互いに笑いあって別れた。彼が無事貯金できたので、私はとても嬉しかった。彼からの感謝の言葉などいらなかった。その後で気付いたのは、これも友愛ではないか、ということだった。確かに、他人を助けてあげたい人はいる。だが、自尊心や恥ずかしいなどの理由で人に助けられたくない人もいる。従って、こういうタイプの人を助けるために必要なのは、相手を助けようという熱心さや行動ではなく、相手を見守る優しい心とささやかな動作だけでいいのではないかと思う。

かくいう私も来学期日本に留学することになった。間もなく見知らぬ場所で

会ったことない人と新しい生活を始める。そのときの私が望むのは、毎日誰かが私のすぐそばで面倒を見て、問題を解決してくれることだろうか。答えはもちろんノーだ。助けてくれたら嬉しいが、それより、自分で物事を学んで、成長するほうがさらに嬉しい。そしてその成長を見守って、必要な時はヒントだけをあげる。これが私が友愛への新しい理解なのだ。

要するに、今私が感じている友愛とは、全力で他人を助けてあげたいという熱い情熱だけでなく、時には直接助けてあげなくても、細かいところに注意し心をこめて相手を見守ること、それだけで十分ではないだろうか。人々に日常の生活で愛を感じさせる。このような簡単なことこそが、友愛だとわたしは信じている。

.....

戴玲（4年）

自己は他者によって作られる
—— わたしにとっての友愛とは

「友愛」ということばを辞書で調べると、「友人に対する親愛の情」と説明されている。こうした友愛は、社会・世界を舞台とする大勢の人間関係に関することとして議論することも可能だろう。しかし私はここでは、人と人との接触で生じた「友愛」を議論したい。そこで自己と周りの他人との関係を友愛の実際として論じていく。

そもそも「自己」は、どのようにして成立するのだろうか。世間一般で考えられているのは、「自己＝わたし」は常に既に当たり前の存在として「ある」ことだろう。だが、「自己」は必ずしも先験的に与えられるものではない。私たちは、この世に生を授かった瞬間から「自己」を持っているわけではないのだ。生まれ落ちて以降、すぐ始められる親を始めとした周囲の大人とのやり取りを通じて、嬰兒は「子ども」への成長していく。その意味で、「社会」との関わりの中で初めて、私たちは「自己」を獲得していくと言える。

こうした「自己」の生成過程において、「他者」が重要な位置を占めている。プラグマティズムの立場から自我やコミュニケーションについて論じたジョージ・ハーバード・ミードが指摘したように、「他者の態度取得」を通じて、私たちは自我を形成し相手とコミュニケーションを図ることが可能となる。相手の視座/立場から「わたし」を捉えることができるようになってはじめて、「わたし」は「自己」を感じ取ることができるのである。ミードはこうした「態度取得」の高度化/多様化のプロセスとして、子どもの成長過程を捉えた。

私たちは成長するにつれ、様々に異なる相手の態度を巧みに取得していきながら、相手との相互行為を首尾よく調整していく能力を身に付ける。ミードの言葉を借りれば、社会的に成長していくことで、特定の「重要な他者」から不特定の「一般化された他者」へと、態度取得の範囲が広がっていくのである。そのことによって、人々はより高度な「社会性」を獲得する。他者の態度を予め取得することで、私たちは相手からの期待を予想し、それに合致した行為を取ることができる。また相手も私の態度を取得することで、私が相手に何を期待していることを予想できる。

こうして相互に期待/予想の交わし合いができるから、私たちは社会的な規範を作りあげ、互いにそれを内面化し、さらに、具体的な場面で実践していけるのである。そして「友愛」は相手との相互行為を首尾よく調整していくことにほかならない。一方で「成長」とは他者との相互行為を適切に処理・調整することに他ならない。ゆえに友愛とは人の成長とともに取得されていくものであり、成長のバロメーターともいえる。

独りよがりの友愛はありえない。友愛は他者を意識できるほどに成長した個体にのみ可能であるからだ。友愛は人間が人間として成長してこそ獲得される。人間としての成長の鍵ともいえよう。

.....

呉薪（3年）

中国では「友愛」と同じような漢字の単語がある。小学生の時、先生はいつもその単語を言ってくれた。その意味は仲間と仲良く付き合うということだ。初めて日本語の「友愛」を聞いたのは川手正一郎の講演の時だった。あの時、まだ二年生であったので、講演の意味は完全に理解できなかった。講演が終わった後、辞書で調べたところ、友愛とは「知人に対して献身的な愛をささげ、見知らぬ他人に対しても愛を惜しまない」という意味である。それは中国の「友愛」よりさらに意味するところが深い。

私にとって、友愛とは自分ができる限り、なるべく他人に優しくして見返りを求めないで助けてあげることだ。なぜかというと、私も大勢の人と同じような普通な人であるからだ。普通な人は政治家とか金持ちとかより社会的に力が弱い。そのため、国や業界などを変える力を持っていない。世界を変えられないなら、自分を変えなければならない。したがって、平凡な私たちは「友愛」を実行したいなら、自分の力によって、他人の気持ちを考えたうえで、他人を助けてあげることだと私は思う。

その中で、一番重要なのは自分の力次第だということである。そのことを教えてくれたのは父だ。子供の頃、うちも貧乏だった。父は非常に優しく、他人を助けてあげたかったが、お金がなかった。したがって、お金の要らないやり方をした。例えば、休みのとき、近所のおじいさんとおばあさんのところへ行って、家事をしてあげた。他人に求められたとき、なるべく他人を助ける。その後、私の家庭が次第にゆたかになったが、父も忙しくなった。老人に家事をしてあげていた時間はなくなっていった。したがって、老人を見舞うとき、必ず老人にお年玉のようなものをあげていた。そして、慈善団体に寄付金を出すようになった。

私はそのやり方が一番賢いと思う。誰もが自分の生活がある。他人を助けるた

め、無理をして、自分の生活を崩しては、家族にとっては不公平だ。そして、無理して助けてあげると、他人の負担になってしまうかもしれない。「あの人は一所懸命私を助けてくれたから、将来恩返ししなければならない」と思う人が多いと思う。したがって、友愛を実行するとき、自分の能力を考えるべきだ。

「友愛」はそんなに難しくはないと私は思う。みんなは自分のできる限りの範囲で、自分の能力によって、他人を助けると、世界はきっと美しくなる

.....

張婉舟（3年）

『友愛』の『愛』という字には『心』が付いていなければならない」と鳩山由紀夫先生は民族大学での講演で語った。友愛は人や物を心から大切に思う愛情の一種である。それは、身近な人と心を配りながら付き合い、お互いに助け合うことだと思われる。しかし、その付き合いの中で、二人の考えが対立すれば、争いがおこる。そのとき、友愛の思想が必要になる。相手の身になって考えること——これが友愛だと私は思う。

どんなに自立した人でも、一人で生きていくのは無理だ。周りの人との細やかなやり取りを通し、出会った人々の話し方や仕草に無意識に影響され、彼ら彼女らの持つ個性の色に染められていく。そして私たちはそれぞれ違う人間になった。最初は、お互いに違いがあるからこそ相手から学ぶことができる。しかし、個人の性格が定まった時から、他人との違いが喧嘩の引き金に変わる。

私の祖父は、最近よく伯母と喧嘩する。祖父は健康のためと称して、大枚をはたいて色々な物を買ってくる。その中に、四、五箱の特別製の健康米があった。普通の米よりざらざらして口当たりが悪く味もおいしくないから、うちで食べる人は祖父と祖母しかいない。だから、二年経っても食べきれなかった。家のあちこちに山積みされた祖父の健康関連商品を前に、騙されているに違いないと

心配した伯母は、これ以上買わないよう祖父に忠告した。すると、祖父は怒った。せつかく栄養価の高いお米なのに、科学を信じないあなたは愚かだと叱った。おいしい食べ物と、それ程おいしくないけれど栄養価の高い食べ物と、どちらを選ぶかと言われれば、もちろん後者を選ぶ。それは長生きしたい祖父の信念である。しかし、祖父は、自分の意志を他人に押し付けているだけだ。伯母だけでなく、若者の私たちは健康を考えないわけではないけれど、人生を楽しむほうがずっと大切だと思うのだ。異なる考えがぶつかって、うちで争いがおこった。これも友愛を知らないがゆえの径行ではないか。他人と意見が食い違った時、自分の考えからしばらくの間離れ、相手はどうしてそう思っているかその原因を冷静に考えれば、人間関係もうまく続けられるだろう。

現代は個性が重要視されている時代に入った。SNSで誰でも自分なりのコメントを表せる。個性豊かな思想が交流できるのはいいが、考え方の違いで争いが始まることも少なくない。中には全く相手の言いたいことを受け入れられなかったり、勘違いして相手を中傷したりする人もいる。ネット暴力にまで転じた事例さえある。言葉は人間にとって最も重要な交際ツールであり、時には刃物にもなる。人々を刃物から救うことができるのは「友愛」であると思う。友愛には紛争の予防策のような作用があるからだ。

異なる意見を尊重し他人を大切に思う人は、必ず同じように他人から大切に思われると信じる。これが私にとっての友愛である。

.....

白楊（2年）

友愛とはその理解が人によって違うにも関わらず、基本的な意味義はほぼ同じだ。子供の頃から、私たちはいつも先生と両親に友愛を教えられた。その時の私にとっての友愛とは、友達に対する態度だ。友達の間で、喧嘩は許さなれず、互

いに助ける必要がある。

小学生の時、親の影響を受けて、友達を助けることが好きだった。例えば、クラスメートが消しゴムを持っていなかった時、私は貸してあげた。友達の具合が悪かった時、病院へ連れて行ってあげた。小さなことだけれど、他人を助けることはすごく楽しいと思った。同時に、他人から好意が寄せられた。当時の私は、親の友愛についての教育を理解し、実践していた。

従って、その頃友愛について深く考えていなかったのも、見知らぬ人、植物、動物などへの友愛も考えなかった。しかし、年齢を重ねるとともに友愛の理解はもっと深くなった。

現在、大学生になり、私の考えは一層成熟した。私が友愛について深く考え始めたのは、大学生の一年生の時だった。友愛とはもっと奥の深いものだと思うようになった。大学一年生の夏休みに、ボランティア活動に参加した。田舎の学校で小学校の授業の手伝いをした。ボランティア活動中、とても印象的なことが起こった。私のクラスに病弱な子供がいた。放課後、ほかのクラスメートによく彼女は苛められていた。私はこのことを発見した後、とても悲しかった。だから、クラスの生徒に向かって、「誰でも長所と短所があります。みなさんは多くの人と交流するべきです。このような交流が多ければ多いほど他人を理解することができます。互いに助けあい、尊重することができます。これが友愛の精神です。勉強だけじゃなくて、この友愛の精神もクラスのみなさんに教えたいたいの物なのです。」と語った。小学生にとっては理解するのが難しいかもしれないと思った。しかし、この一件の後で、クラスの子供たちが彼女に対して友好的になっていった。これは友愛の表現だ。私も気持ちがよかった。

今学期、鳩山先生の「友愛社会の実現を」の講演を聞いた。彼は国際、社会、経済、歴史などの視点から友愛について説明した。私にとって印象的なことは最後の歴史上の罪への謝罪の部分である。歴史問題は中日関係に影響を与えている。南京大虐殺記念館での謝罪は歴史を直視した表現だ。一部分の人は中国に対し

て反対しているが、多くの方は中日関係の改善に賛成している。これは友愛の精神だ。友愛があるから、戦後の日本人は一つにまとまり、ミスを認め、新しい国を建設できたのだと思う。友愛の心は国境を越えて全世界の人々に共通であると信じている。

友愛の表現は簡単だ。目上の人に挨拶したり、電車の中で体の不自由な人に座を譲ったり、足元にゴミを拾ったりしている。今後は更に友愛を実行していきたいと思う。誰もが愛を捧げれば世界はもっと美しくなる。友愛の世界が見られるようになると思う。

.....

高佳蔚（4年）

愛はいろいろな種類がある。親子の愛、師生の愛、友達への愛、知らない人の愛、我々は愛が溢れている雰囲気の中で成長している。「母親の愛が一番えらい」人々はよくこう話したけれど、一番暖かい愛は友達への愛—友愛だと思う。友愛という言葉を経験的に分析し、この二つの文字を分かれて見ると、友愛は友情と愛情だという意味なのだ。友達の間で助け合って、それと同時に恋人のように付き合っている。倒れた時、あるひとりの一句「大丈夫ですか」は友愛だという。落ち込んでいる時は、あるひとりの一句「心配しないでよ」は友愛だという。自分がダメだと感じている時は、あるひとりの「頑張ってください」も友愛だという。

私にとって友愛とは立派なことではない。以上の話したように友達が恋人のように付き合っていて、お互いに応援して、愛している。これは探しやすいものだから、立派なことではないのだ。友達から愛を取って、自分から愛をして、これは友愛。これだけでなく、困っている時、知らない人からの暖かい微笑みも友愛の一種だと思う。

私にとって友愛も簡単なことではない。心で愛があったらこそ、友愛を含めるこ

とができると思う。では、愛は一体何だろう。世の中で誰でも友達がいるのだが、誰でも友愛があるのではないのだ。小さい友愛は友達の助け合うこと、大きい友愛は国と国の間で様々な種類の協力すること。言い換えれば、様々な種類の友愛とは、決して簡単なことではないのだ。

私にとって友愛は少し距離感がある感情だ。私がよくこう考えて、中国で人々はよく「友達」、「友情」という言葉を言ったが、「友愛」という言葉は余り話してなかった。どうしてだろうか。友愛が少し大きい範囲を含めるという感じがあるかもしれない。だから、中国の身の回りの人々は友愛が知っているのだが、普通は話してこなかった。

友愛は簡単ではなく、立派ではなく、少し距離感があるものだと思う。少し距離感があるのだが、私は友愛の人になりたい、友愛のことをやりたい、友愛の世界を作りたい。

.....

邵雪穎（4年）

「人はマシンではないのは人性があるからだ。マシンに勝る優位は友愛が満ちた人の心しかない。」

長い時間を経て色が変わってしまった紙の上でそう書かれていた。紙は父からもらったコンセプト時代にまれに見るメディアで、私も紙に文章をめつたに書かなかった。しかし、今それを書かなくてはいけない。

私は記者だった。人工知能の急速な発展につれて、編集者、アナウンサーなどが次々と続いて失業して、私も首にされた。

外へ出なくて、仕事もない。親友と連絡しなくて、自分の声も上げられない。それは私一人だけではなく、2200年に生きている人々の写実である。

150年前に人気があった家政ロボットが回収されて、今服を着替える必要がなく、

食べ物の代わり、薬を摂取する。だから、人は生活の趣味を失った。

100 年前にネットに溢れた仮想学校が消えて、人工知能が大分の社会ポストを占め、児童ですら学校に出なくなった。だから、人は生活する動力をなくした。

50 年前に道で秩序をだっている自動タクシーが遊ばされて、人が外へ行く必要がなく、終日家に閉じこもるようになった。だから、人は友達がなく、心のつながりがなかった。

科学技術につれて、世界はグローバル・ヴィレッジになった。しかし、人は最初の友愛がある心を失い、人々の中に冷たい壁が築かれた。

「人類が団結しなければ、マシンに負け、人間社会の最期を遂げなければならない。」

はっきりした私は無関心な人を呼び覚ますように、ネットで声を出したいが出せなかった。だから、原始の紙を見つけ、筆を武器として敵と戦うつもりだ。

人間社会は人工知能にじわじわ侵食され、世論の陣地にも占領された。紙媒体が絶滅した後、平民の声を上げられたネットも陥落した。細かい情報の量が激増し、人の考える能力を奪った。そして、人の記者と編集者が少なくなり、人類の発声プラットフォームを遮った。

しかし、人だから、人を愛している。200 年前に国と国との間の友愛と平和を保護するために努力した人間のように、人間社会を守る責任を担うべきだと思う。そして、一人、一つの国だけではなく、友愛という気持ちと呼びかけ、人の心と呼び覚ましてから、全人類の力を集結しなければならない。

「人だから、人を愛している。」

それはコンセプト時代にある初めの新聞で、最後の新聞ではないと祈っている。

.....

芦雅潔（４年）

去年民族大学で、鳩山氏の講演を聞いて、友愛という話題について、いろいろな考えがある。

前回の友愛協会の講演に比べて、中日の隣国関係や政策などの説明が多かった。中国は自始自終友愛な世界を構成することを努力して、ある程度で、鳩山氏あるいは友愛協会との視点と同じだと思う。例えば、現在の中国はどんどん世界の舞台で大きな役割を果たしていて、様々な政策を実行している。一带一路はその一つである。友愛的で、豊かなアジアになってほしいので、中国も経済や文化などの分野での協力を呼びかけている。

それから、友愛的な世界を構成するのは、中国の昔からの目標である。古代の孔子が「和」を提出して、今までも影響に及んだ。近代、仁愛のある正義の人も民主的な国を目標として、続けて頑張った。現在の中国では、友愛の意味も豊かになった。教育の公平、経済の発展、貧乏な人を助けるなど、具合的に様々な社会分野のものがある。

実は、友愛も各国の責任だと思う。今の世界で、友愛はもう人間の常識になったかもしれない。どんな国でも、どんな人種でも、お互いに助けて、暖かい気持ちを伝えるのは基本的な意識である。しかし、不幸なこともよくある。難民事故や原子能事故やテロリストなど、人間の友愛を破壊して、世界の和平にも危険があると思う。外国語学生として、留学する友達が多いので、毎度そのニュースを聞いた時、心からの不安がいっぱいになった。したがって、私はずっと友愛な世界を構築することを願っている。

歴史による、中日の間で友愛に反することも少なくない。戦争のため、両国の経済や文化交流は難しくなって、国民にいろいろな迷惑をかけた。そのほか、今でも政治立場が違いところもある。私にとって、国でも人間でも、大きな同じを目指して、小さい異を保留すべきだと思う。

要するに、私にとっての友愛というものは、全世界的な認識というものである。友達でも、知らない人でも、友愛を伝えて、そのため、幸福な家族、安定な国、平和な世界を心から願っている。

.....

孫家麗（4年）

「友愛」とは友愛協会のすべての主張と理念の実質の体現であると思っている。しかし、一人一人は「友愛」に対してこの2個の文字の理解は異なっている。私に、「友愛」が2階の意味があるように見えて、1個は「友」で、別の1個は「愛」である。友と愛一緒にいる時はこれはやっとな友愛協会になる。

私にとって、「友」がただ1種類の意味がある。この意味は生活することに対して友好的である。日常生活に、いつも思いどおりでない時がある。この時、悲しんではいけなくて、生活を不平を言うてはいけなくて、生活に対して友好することを勉強する。生活に友好することを勉強して、生活中の酸甘苦辛の味を試食して、多い容貌多彩な人生を気がつくことができる。

同時に、私は「愛」が2種類の意味を含むと考えている。1種類の意味は自分に対して愛である。この種類の愛は「自重」ということである。自重は自分自身の体を大切にして健康をそこなわないようにすること。もちろん、健康であることにとどまらなくて、自分のあらゆる面を愛する。ただ先に自重を勉強することができて、やっとな他人の愛を得ることができると思う。

そして、「愛」の別の意味は他人に対して愛することがである。こと種類の愛は「尊重」ということである。他人、命、伝統などの生活中にあらゆる面を尊重することを勉強していく。古来、中国は互いに尊重して互いに愛することを提唱している。まず、尊重することがあって、その後、愛がある。ただ尊重することを勉強して、愛を得ることができて、このように生活から友好を感じることをでき

と思う。

とにかく、「友」と「愛」は不可分の整体である。双方は相互にを収容して相互に影響している。生活に友好することを勉強して愛を得られる。同時に、愛することを勉強して生活の友好を感じられる。最後、心から友愛協会は友愛精神を発揚することを願っている。



左のyu(ユー)と右のai(アイ)でユーアイ(友愛)です。これは英語のユー(You あなた)と(I 私)に通じ、全体の形は、We(私たち)のwでありWorld(世界)のwです。

あなたと私、私たちが友愛の世界を目指しましょう！

日本友愛協会

<http://yuaikyokai.com>